

教材4-B-(2)の解答 **資料の活用、分析**^{ぶんせき}

② 『ヒストグラムの分析』の解決のために

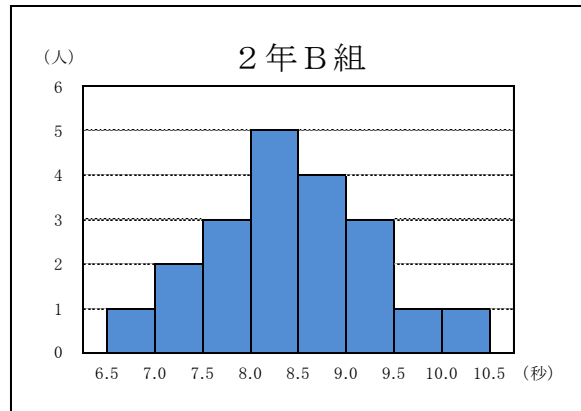
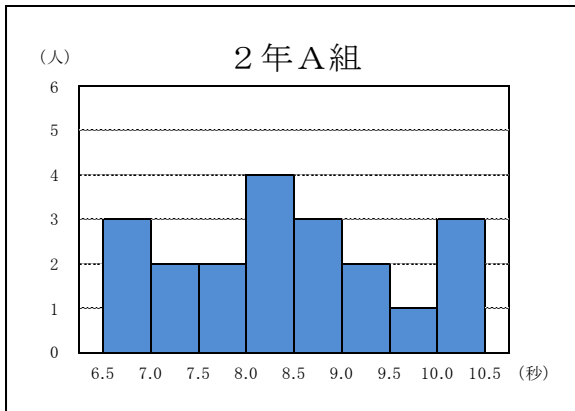
○ヒストグラムとは、「階級の幅を底辺、度数を高さ」とする長方形を順に並べてかいたグラフ。

○最頻値^{さいひんち}とは、資料の中で、最も多く出てくる値^{あた}。

○範囲^{はんい}とは、資料の最大の値と最小の値の差の値。

○中央値とは、資料を大きさの順に並べたとき、中央にくる値。

上記のことを踏まえて、それぞれの設問とヒストグラムを見比べると



① 8秒未満で走ることができる生徒の人数は、2年A組は 7 人

2年B組は 6 人

② 最頻値^{ふく}の含まれる階級の相対度数は、2年A組は 4 ÷ 20 = 0.2

2年B組は 5 ÷ 20 = 0.25

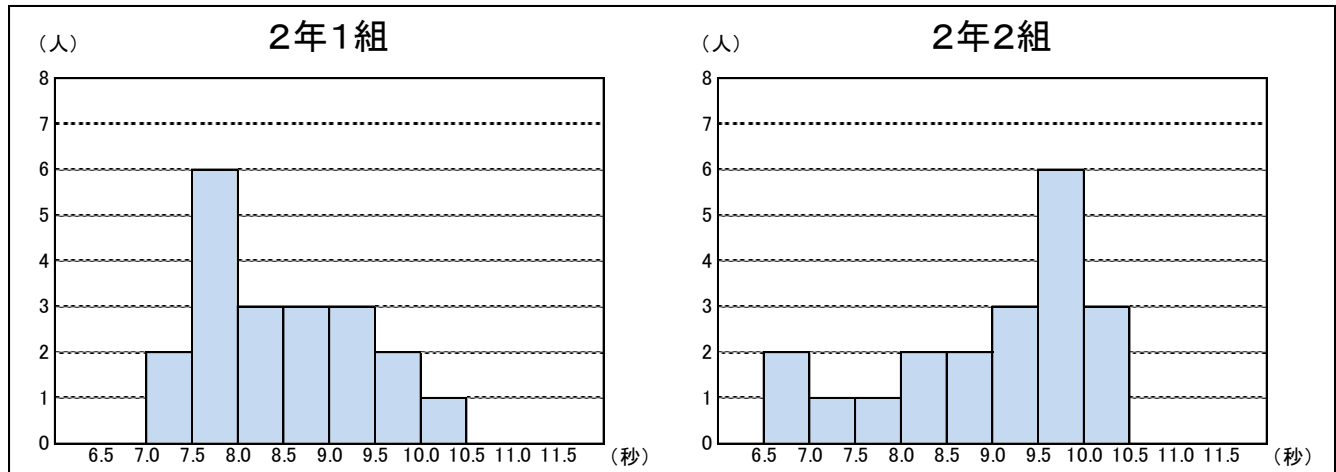
③ 度数の最大の値と最小の値の差は、**この場合は読み取れない**

④ 2年A組の中央値の含まれる階級は 8.0秒以上 8.5秒未満

2年B組の中央値の含まれる階級は 8.0秒以上 8.5秒未満

たしかめよう

下の2つのヒストグラムは、ある中学校の2年1組と2年2組の男子の50m走のタイムの結果を表したものです。



このヒストグラムから分析すると、どのような傾向や特徴が読み取れますか。次の①～④の中から1つ選びなさい。

- ① ヒストグラムの形が違うので、2つのクラスの総生徒数も異なる。

総生徒数は、各階級にある度数の合計
2年1組の総生徒数は 20
2年2組の総生徒数は 20

- ② 最頻値の含まれる階級の相対度数は、2組の方が大きい。

2年1組の最頻値の含まれる階級は7.5以上8.0未満で、その度数は6
2年2組の最頻値の含まれる階級は9.5以上10.0未満で、その度数は6

よって、どちらのクラスも最頻値の含まれる階級の相対度数は同じである

- ③ 7.0秒未満で走ることができる生徒は、2組の方が多いが、8.0秒未満で走ることができる生徒は、1組の方が多。

正しい

- ④ ヒストグラムの形は違うが、中央値の含まれる階級は、どちらのクラスも同じである。

2年1組の中央値の含まれる階級は8.0以上8.5未満
2年2組の中央値の含まれる階級は9.0以上9.5未満

3